

大木先生と行く！ 地層読み解き in 城山



日時 平成二十九年五月二十八日(日)
十時～十二時

場所 城山遊歩道

講師 大木 公彦

(鹿児島大学総合研究博物館 元館長)

講座当日は、爽やかな晴れ。

◆「縄文時代、今より海面が3～5メートルも高く、照国神社の入口は海岸線で、天文館のあたりは海でした！」先生の軽快で興味深い話は、集合場所の照国神社鳥居前から始まりました。【写真①】

◆「高い山で海の化石が見られる理由は、その地層が隆起したからです！地球は生きています。動いています。」約13万年から12万5千年前の海に堆積した地層で、カニ・貝などの巣穴の化石が見られます。【写真②】

◆「地層は、ひしもちのように重なっています。」

◆「この地層は薩摩桜島火山灰(テフラ)」と呼ばれています。これにより、その上は縄文時代、下は旧石器時代にできた地層ということが分かります。「道中、約1万3千年前の桜島マグマ水蒸気爆発で噴出した軽石・火山層も見られました。」

◆頂上の城山展望台から眺める市街は、桜島をバックにとってもいい景色。

「今の地形は海や火山、川などいろいろなものが影響して作られています。」
まとめのお話を聞くみなさん、感慨深げな様子でした。



③防空壕跡近くの地層。火砕流堆積物＝シラス(もともとは方言)も見られます。



②海の生物の痕跡がある。昔、海だった証拠になります。



①普段、意識していないと平らに感じる道でも高低差があります。

『地球の営みはこれからも変わらない。知っておいて防災に役立てることもできる。』
歴史、文化、地球の営み…盛りだくさんの楽しい講座でした。